『就実教育実践研究』第16巻　抜刷
就実教育実践研究センター　2023年３月31日　発行

幼児教育・保育施設における実習生のエプロン着用状況

Apron Wearing Situation of Trainees in Kindergarten and Nursery

松本　希・三好年江・六車美加・鎌田雅史

幼児教育・保育施設における実習生のエプロン着用状況

松本　希，三好年江，六車美加，鎌田雅史（幼児教育学科）

Apron Wearing Situation of Trainees in Kindergarten and Nursery

Nozomi MATSUMOTO, Toshie MIYOSHI, Mika MUGURUMA, Masafumi KAMADA
（Department of Preschool Education）

抄録

保育雑誌や保育に関係する教科書等に掲載されている保育者の写真やイラストは，エプロンを着用していることが多く，一般的に保育者がエプロンをしているイメージが定着していると考える。そこで，保育学生を対象に，保育所実習及び幼稚園教育実習中のエプロン着用状況について調査した。その結果，幼稚園教育実習と比較して保育所実習中にエプロン着用している学生が多いことがわかった。保育所実習で 3 歳以上のクラスを担当した学生と幼稚園教育実習時のエプロン着用状況の比較では，幼稚園教育実習でエプロンを着用しないと回答した者が多かった。実習中にエプロンを時々着用したと回答した者は，全て給食準備時に着用していた。保育学生がエプロンに望む機能は，ポケットが 2 個ついており，着脱しやすいものであることがわかった。

キーワード（エプロン，保育所，幼稚園，保育所実習，幼稚園教育実習）

Ⅰ，背景と目的

国語辞典では，エプロンは前かけとして「仕事をするとき着物のよごれを防ぐため、ひざの前に掛ける布」と記されている[1)]。一般的に，保育士はエプロンを着用しているイメージが定着していると考える。その根拠に，保育雑誌（月刊誌）[2) 3) 4) 5) 6) 7)]を複数冊確認すると，保育者のモデルとして掲載されていると思われる女性の写真やイラスト，保育活動中の現場を収めた写真に写る保育者の多くはエプロンを着用していた。しかしながら，保育者のエプロン着用は規定されたものではなく，当然，乳幼児の保育や施設運営の基本を示す「保育所保育指針」[8)]や「幼稚園教育要領」[9)]にも保育者の衣類に関する記述はない。保育現場におけるエプロンについての先行研究を調べたところ，保育教材である「エプロンシアター」に関する報告は多数あるが，保育者のエプロン着用についての報告はなかった。保育所実習や幼稚園教育実習に対しての保育学生向けの教科書的なテキストを調べると，エプロン着用に関する記述はないが，実習生の服装には「清潔さ」がキーワード

として挙がっていた[10) 11)]。

現在，本邦には保育士を養成する指定保育士養成施設が668校ある（2022年）。そのほとんどは，保育士と同様に就学前の子どもの教育を行う幼稚園教諭免許の取得もできるカリキュラムを組んでいる。指定保育士養成施設及び幼稚園教諭を養成する教育課程がある施設の在学中に，この２つの資格の取得を目指すならば，保育士は保育所実習，幼稚園教諭は幼稚園教育実習に行く必要がある。実習園での実習がスムーズに行われ，実習園の実習生受入れの負担を軽減するために，大学などの養成施設で行う実習事前指導の内容は多岐に渡り，計画的に行われる[12)]。その中で本学科では，実習期間中の服装については保育所実習・幼稚園教育実習ともに，実習園の行き帰りはスーツ等の着用を勧め，子どもと接する実習中は，清潔で明るく活動しやすい服装で，子どもや自分自身の安全にも配慮した服を着用するよう指導している。実習中のエプロンの着用については，指導したり着用を求めたりすることはなく，実習園の指示や実態に従うよう伝えており，実習園の裁量に任せているのが現状である。

そこで本調査は，現在の保育現場での保育者のエプロン着用状況の基礎資料をまとめることと保育現場においてエプロンを着用する場合にどのようなエプロンが機能的であるかを調べることを目的とし，保育学生を対象に，保育所実習及び幼稚園教育実習中のエプロンの着用状況を調査した。

なお本論文で使用する「保育者」の語句は，保育所・幼稚園・こども園等に勤務する保育士資格取得者や幼稚園教諭免許取得者，またはその両方の資格を持っている人を指す呼称として用いる。

Ⅱ，方法

１，対象者

2021年度に本学幼児教育学科に在籍した学生を対象とした。対象者は，７月から８月にかけて，10日間または20日間の保育所実習を行い，その後９月に４週間の幼稚園教育実習を行った。保育所実習は，ほとんどの学生が20日間の実習を選択している。全ての実習が終了した後に，実習中のエプロン着用に関するアンケート調査を行った。アンケートは，無記名とし，実習先の園名などのデータ収集は行わなかった。対象者には，本調査の目的や方法を口頭と文書にて説明し，回答は任意とし，87名から回答を得た。

なお，2021年度は新型コロナウイルス感染症の流行により，現場での幼稚園教育実習が中止となり，学内実習に変更になった学生がいるため，幼稚園教育実習中のエプロン着用状況の回答は保育所実習と比べて少ない。

２，アンケート調査

アンケート調査の内容は，保育所実習と幼稚園教育実習ごとに，①担当クラスの子どもの年齢，②エプロンの着用状況についてたずね，保育所実習及び幼稚園教育実習でのエプ

ロン着用状況を比較した。エプロンの着用状況は,「常に・たいていは・時々・めったにしない・しない」の５件法で回答してもらったが,「たいていは」「めったにしない」と回答した者は少なかったため,「常に」「しない」以外の回答をした者は「時々」にまとめた。

加えて,保育者が着用するエプロンの機能性を調べるために,実習中にエプロンのポケットに入れていた物（自由記述），保育中に着用するエプロンに希望するポケットの数，保育時に使いやすいエプロンの機能（自由記述），も尋ねた。

Ⅲ，結果

１，保育所実習及び幼稚園教育実習における実習生のエプロン着用状況

１）担当クラスの子どもの年齢

対象者の保育所実習及び幼稚園教育実習時の担当クラスを表１に示す。なお，縦割り教育を取り入れている園等，複数年齢のクラスを担当している場合があるため，３歳未満児クラスと３歳以上児クラスに分けた場合に，単年齢クラスの合計人数とは相違がある。

表１　対象者の担当クラス

担当クラス	保育所	幼稚園
0歳児	8	―
1歳児	11	―
2歳児	18	―
3歳児	14	17
4歳児	15	7
5歳児	11	24
３歳未満	42	―
3歳以上	44	53

人

２）エプロンの着用状況

保育所実習及び幼稚園教育実習時の対象者のエプロン着用状況を図１と図２に示す。保育所実習では，担当クラスの年齢が上がるにつれて，エプロンを常に着用する割合が減っていた。

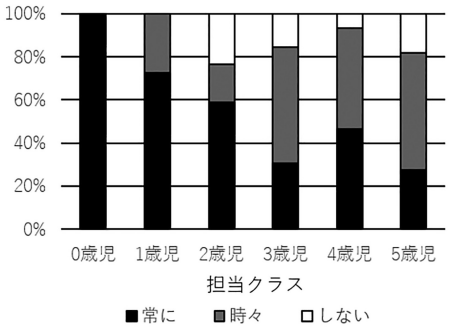

図１　保育所実習時のエプロン着用状況

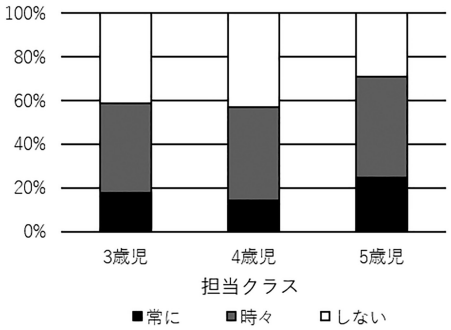

図２　幼稚園教育実習時のエプロン着用状況

次に，保育所実習及び幼稚園教育実習中のエプロンの着用状況の差をχ二乗検定により調べたところ，有意な差があった（$\chi^2(2)=16.16, p<.001$）。残差分析の結果を表２に示す。保育所実習では「常に」着用したが有意に多く，幼稚園教育実習では着用「しない」

表２ 実習先別エプロンの着用状況

着用状況	施設種（施設種）	
	保育所	幼稚園
常に	△ 45	▼ 15
時々	30	30
しない	▼ 9	△ 19

△は有意に多い、▼は有意に少ない

が有意に多いことがわかった。「時々」エプロンを着用したと回答した者に，どんな時にエプロンを着用したかをたずねたところ，全ての対象者が食事準備時と回答した。

幼稚園教育実習では３歳以上児の教育・保育をするようになる。そこで，保育所実習で３歳以上児クラスが担当だった対象者と幼稚園教育実習時のエプロンの着用状況についてχ二乗検定をしたところ，有意な差があった（$\chi^2(2)=5.312, p<0.07$）。残差分析の結果を表３に示す。保育所実習と幼稚園教育実習では，エプロンの着用を「しない」場合に有意な差が示されることがわかった。

表３ 実習先別エプロンの着用状況
（３歳以上児クラス）

着用状況	施設種（施設種）	
	保育所	幼稚園
常に	15	15
時々	24	30
しない	▼５	△19

△は有意に多い、▼は有意に少ない

２，実習生が保育中に着用するエプロンに望む機能

１）保育所実習及び幼稚園教育実習中にエプロンのポケットに入れていた物

対象者は，エプロンのポケットに平均2.7個のアイテムを入れていた。回答の多かった順に，ハンカチ・メモ帳（ともに73.1％の回答），ペン（65.4％），ティッシュペーパー（32.1％）であった。その他に回答があった物は，三角巾や保育小物等であった。

２）希望するエプロンのポケットの数

結果を図３に示す。保育時に使用するエプロンに希望するポケットの数を尋ねたところ，２個と回答した者が最も多かった。

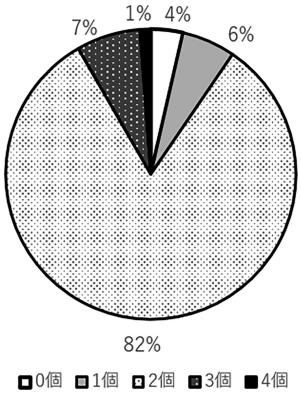

図３　希望するポケットの数

３）保育時に使いやすいエプロンについて

自由記述にて，保育時に使いやすいエプロンについて回答を求めた。10回以上使用されていた単語を表４に示す。単語出現頻度が最も高かったのは,「着脱（しやすい）」であった。次いで「ボタン」「色」「ひも」「ポケット」「かぶる」と続いた。大きく分類すると「機能」と「見た目」に分けることができた。

表４　使いやすいエプロン調査で示された単語

単語出現頻度	
着脱	18
しやすい	18
ボタン	16
色	12
ひも	10

回

「機能」では，着脱のしやすさ，ボタンの有無，ひもの有無などの回答が多かった。ボタンの有無は，ボタンがある/なしで意見が分かれていたが，ひもに関しては無いことを希望していた。ボタンは子どもの誤飲を意識してボタン無しを回答する対象者がいる一方で，ひもが無い代替えとして，ボタンがあることを希望する回答もあった。加えて，ボタン有りを回答した者は，ボタン位置をエプロンの横と指定した回答が多かった。

「見た目」では，色合いや素材に関する回答が多かった。明るい色や優しい色の回答が多かった。「キャラクター」の単語出現頻度も７回と多かった。これは子どもが好きなアニメや絵本のキャラクターを指すが，キャラクターについては，有り/無しで回答が分かれていた。

Ⅳ，考察

１，保育所実習及び幼稚園教育実習における実習生のエプロン着用状況

本調査の結果から，保育所実習及び幼稚園教育実習中の実習生のエプロン着用状況は，保育所実習ではエプロンを常に着用している者が多く，幼稚園教育実習では時々着用もしくは着用しない者が多いことがわかった。本学科では，学生に実習中のエプロン着用は実習園の指示や実態に従うよう伝えている。そのため，本調査の結果は保育所及び幼稚園の現場の様子を反映していると予測する。同じ未就学児を対象とする施設でありながら，エプロンの着用状況に違いがみられたのは，保育所と幼稚園のそれぞれが持つ背景や機能が異なる点にあることが考えられる。

保育所は，厚生労働省の所管の児童福祉施設であり，「保育所は，保育を必要とする乳児・幼児を日々保護者の下から通わせて保育を行うことを目的とする施設（利用定員が二十人以上であるものに限り，幼保連携型認定こども園を除く。）とする。」と児童福祉法第39条で規定されている[13)]。2015年に児童福祉法は改正されたが，それ以前は「保育を必要とする」を「保育に欠ける」と表記されていた。これは家庭養育の補完を意味する表現として使用されていた。現行の保育所保育指針[8)]でも，「保育の必要性」という表現が用いられており，「保育の必要性」とは，主に保護者の就労や妊娠，出産，疾病，障害，求職等により，家庭での保育が困難な場合を指す。「保育」の語句については明確な定義は無いが，一般的には，乳幼児を保護し養育することと捉えられている。保育所の保育時間は一日につき８時間を原則としており，０歳児から受け入れをし，乳幼児が一日の大半の時間を生活する所である。そのため，保育所やそこで働く保育士には，子どもの生命や健康の維持，情緒の安定，基本的生活習慣の確立等を育む役割がある。同様に就学前の子どもが生活をする場所として，幼稚園がある。幼稚園は，文部科学省が所管の学校教育法に基づく教育施設である。幼稚園教育要領[9)]では，教育課程の編成基準を示し，１日の教育時間の標準を４時間とし，３歳以上の幼児に対し保育（教育）を行うとしている。現行の保育所保育指針[8)]及び幼稚園教育要領[9)]では，（１）子どもと保育者との信頼関係を基盤とする，（２）子どもの主体的な活動を大切にし，適切な環境の構成を行う，（３）子ども一人一人の特性と発達の課題に即した指導を行う，などを基本としており，３歳以上児については幼児教育の指針として整合性が図られている。このように，現行の保育所保育指針や幼稚園教育要領の整合性が図られているにも関わらず，エプロンの着用状況に違いがあることは，保育所は子どもが，一日の大半を過ごす場所であり，保育所保育指針の保育の目標の中の「（ア）十分に養護の行き届いた環境の下に，くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求

を満たし，生命の保持及び情緒の安定を図ること。」や保育の環境の中の「保育室は，温かな親しみとくつろぎの場となるとともに，生き生きと活動できる場となるように配慮すること。」，さらには情緒の安定の欄に記載されていることを達成するためにも，子どもが安心し，伸び伸びと生活できるよう，母親を思い出したり，家庭的な雰囲気を出したりするアイテムの一つとしてエプロンの着用があるのかもしれない。しかしながら，現代の母親が家庭でエプロンを着用しているかどうかは不明であり，保育所が創設された時代からの名残りや保育所は家庭養育の補完として捉えられていた頃のイメージが残っていることも考えられる。

今回の調査では，0歳児クラスで実習を行った対象者は全員がエプロンを着用していた。加えて，1歳児クラスでもエプロンの着用をしないと回答した者はいなかった。特に0・1歳児は，食事，排泄，衣服などの着脱，睡眠等，生活面の全てにおいて子どもと直接的に関わり，多くの援助を要する。また歩行も完全に安定していない時期[14] なので，保育者が子どもを抱く機会も多い。そのため，子どもから汚されることを想定し，さらに抵抗力の弱い子どもに対して，人的環境である保育者自身がより衛生的であるための合理的なエプロンの着用であると考える。保育所では，担当クラスの年齢が上がってもエプロンを20％程度が着用していた。それは，0歳児から続く保育の連続性の中でエプロンの着用が残っていたり，自分の受け持ちクラス以外の低年齢の子どもを保育する場面があったりするためであると予測する。

一方で幼稚園は，教育機関として3歳児以上の子どもが通う施設であり，ほとんどの場合はおむつはずれが済んでおり，基本的な生活習慣も確立しつつある発達段階である[14]。この基本的生活習慣の確立のために，保育者が直接的に関わるよりも，間接的に支援したり促したりすることが多い。そのため，保育者が子どもから汚されることが少なくなり，エプロンを着用する必要が無い場合が多いのだと考える。一般的なエプロンの着用場面として，食事準備時に必要になることが予測されるが，本学がある岡山県内の公立幼稚園は，家庭からお弁当を持参することとしている園がほとんどであり，配膳などの必要がないため，エプロンの着用を必要としないのかもしれない。

本調査では，保育所実習及び幼稚園教育実習ともに，時々エプロンを着用したと回答した対象者は，全員食事準備時に着用していた。保育活動時等の子どもと関わる時に着用することも想定していたが，そのような回答はなかった。食事準備時のエプロンの着用は，先生自身が配膳で衣服が汚れるのを防ぐ目的もあるが，それよりも子どもの口に直接入る食事を取り扱うため，衛生面への配慮を目的としているところが大きい。食事準備時にエプロンを着用すると回答した対象者のエプロンのポケットに入れていた物に，三角巾の回答が約2割あった。三角巾についても，髪の毛やほこりが食事に落ちないようにするために着用している。また，年長児（5歳児クラス）になれば，小学校での生活につながるよう，子どもに配膳のマナーを教えるための見本として着用していることも予測される。

今回，この調査の問題点として，対象者に保育所実習と幼稚園教育実習のエプロン着用

状況の調査としてだけ伝え，回答してもらい，それぞれの実習先の施設の種類までは尋ねなかったことにある。対象者は，保育所と幼稚園だけに実習に行くわけではなく，認定こども園に実習に行く場合もある。2006年より認定こども園制度が始まり，もともと保育所もしくは幼稚園を運営していた母体が，幼保連携型認定こども園として移行している可能性もある。現に，対象者が実習に行った年度では，保育所実習では実習園61園中17園がこども園，幼稚園教育実習では実習園52園中11園がこども園である。こども園の場合，もともとの運営施設からの影響が反映されている可能性もある。それぞれの実習先の施設種類についても検討することで，保育者のエプロン着用の実態がより詳細になると考える。

2，実習生が保育中に着用するエプロンに望む機能

実習生は，実習中にエプロンのポケットに，ハンカチ・メモ帳・ペンを入れている人が多いことがわかった。いわば，この３点が実習生の持ち物の三種の神器といえるようだ。現場では，環境（遊び）を通しての保育・教育が求められており，保育者は遊びの前後や子どもの世話などで手を洗う機会が多いためハンカチが必要になると考える。メモ帳とペンについては，実習生は，子どもの様子を記録するだけでなく，日々の実習録や指導案作成などの課題をするために，園や保育の様子も記録する必要があり，メモ帳とペンは必須のアイテムであると考える。

保育・教育中に着用するエプロンには２個のポケットがあるとよいの回答が最も多かった。これは，一方にハンカチを，もう一方にメモ帳・ペンを入れ，用途を分けたいからではないかと予測する。ポケットが２個あり用途を分けることは，メモ帳とペンを頻繁に使う実習生にとっては，取り出すための時間を短縮させることができると考える。保育・教育の中で，エプロンを着用しない場合でもメモを取る機会は変わらないため，これらのアイテムは必要であり，そのことも踏まえた実習中の服装選び（ポケットの数や深さ等）が重要であるいえる。

保育に使用するエプロンはどのようなものが使いやすいか尋ねたところ，「着脱しやすい」の回答が最も多かった。これは，配膳の際に配膳用のエプロンに付け替えたり，汚れた場合に着替えるたりなど，保育中に脱いだり着たりする機会があるためと考える。そのため，容易に脱いだり着たりできるよう，かぶるタイプのエプロンを望む回答が多かったと予測する。保育者を対象とした先行研究においても袖なしのチュニック型のエプロンを好む結果であった[15)]。坂元の報告[16)] では，保育園からの要望を受けて，保育者が着用するエプロンを４年間かけて改良を重ねて製作している。当初，ひもありのエプロンを製作していたが，ひもを踏んでしまうなどの保育者からの声があり，最終形態としてひもをなくし，着脱しやすいように袖ぐりを大きくカットした袖なしのチュニックワンピース型のエプロンを製作した。加えてポケットも当初は外付けのエプロンであったが，子どもを抱きかかえた時に子どもがポケットに足を入れてしまうという意見があり，脇縫い目利用のシームポケットを採用している。本調査では，子どもの誤飲を防ぐためにボタンがついて

いないエプロンを希望する回答があった一方で，エプロンを自分の体に装着させる手段としてひもの利用ではなく，ボタンの利用を望む回答があった。ひもありを望む回答は無かったため，エプロン着脱の際の紐を結ぶ・ほどくの作業時間を省き，子どもに引っ張られたり，他者や自分でひもを踏んで転倒したりするのを避けるためにもひもありエプロンを保育時に着用するのは好ましくないのではないかと考える。ボタンを使用したエプロンについては，ボタンの大きさや素材などを考慮することによって，子どもの誤飲を防ぐことが可能であるかもしれない。しかしながら，子どもの予測不能な行動を考え，少しでも危険のある可能性があるものを除くためにも，ボタン付きのエプロンを着用する場合には，十分な配慮が必要であると考える。

エプロンの見た目は，明るい色や優しい色の回答が多かった。保育者は子どもにとって，人的環境であり，環境の一部として考えるならば，保育室に合った色合いが好ましいのではないかと考える。また，３歳未満児のクラスでは，子どもの唾液や口から出た食べ物，排泄物がエプロンに付着する可能性が高い。例えば，保育所で感染症が流行している際に，保育者がエプロンを介して感染症の媒介にならないためにも，子どもがエプロンに多く触れると予測される部分は，汚れを隠すような多くの色で構成されたエプロンよりも，保育者自身が汚れに気付きやすい単色を基調としたエプロンの方が，エプロンが汚れた際に気付きやすく，取り換えがスムーズであるため好ましいのではないかと考える。

エプロンの柄としてキャラクターがついているのを望む回答と望まない回答で分かれていた。キャラクターを望まない理由としては，前述したような環境の一部として保育者を考えていたり，汚れの早期発見を考慮したりしているのではないかと予測する。一方でキャラクターを望む理由は，子どもの注意を引くためと考える。キャラクターに頼らず子どもの注意をひくための手段として，安全性を考慮した保育仕掛けをエプロンに装備したり，対象クラスの子どもの発達特性に合わせた保育小物をエプロンのポケットに入れたりしておくことでカバーができるかもしれない。

３，実習生へのエプロン着用についての考え方

保育所や幼稚園によっては，保育者が着用するエプロンやその内容を指定しているところもある。一方で，保育者に制服を貸与したり，保育者自身の裁量に任せていたりなどさまざまである。保育者の服装は，保育・教育施設を運営する自治体や法人，上長の考え方に大きく影響される。しかしながら，エプロン着用の有無にかかわらず，保育者養成施設は，保育の基本を習う立場にある保育学生に，子どもや園を主体として，子どもと保育者の安全の視点から，どのような服装やエプロンが好ましいかを実習事前指導や関連する授業の中で考えさせ，自分に合った服装やエプロンを根拠を持って選ぶ力を育てる必要があると考える。

Ⅴ，本調査の課題と今後の展望

一つ目は，本調査の対象者の保育所実習及び幼稚園教育実習の実習先の多くは，本学がある岡山県を実習地としており，本調査の結果が全国的な結果を反映しているかは慎重に検討する必要がある。しかしながら，保育雑誌（月刊誌）を見ても，エプロンを着用している画像やイラストが多いことから，大きく乖離しているとは考えられない。今後，県外へも対象者を拡充して調査をする必要がある。

二つ目は，本学では，実習事前指導の際に，実習中にエプロンを着用するよう指導していないが，大学によっては学内で統一したエプロンを揃え，実習中にエプロン着用を促している場合もある。保育者養成施設の指導方法についても検討することでより詳細な実態がわかると考える。

Ⅵ，まとめ

保育学生の保育所実習及び幼稚園教育実習のエプロンの着用状況では，保育所実習は子どもの年齢が上がるとエプロンを常に着用する者の割合が減少したが，幼稚園教育実習と比較して，「常に」着用している者が多かった。保育所実習で３歳以上児を担当した者と幼稚園教育実習時のエプロン着用状況を比較しても，幼稚園教育実習でエプロンを着用しない者が多かった。これは，保育所と幼稚園のそれぞれの持つ機能の差が影響していると考える。エプロンを「時々」着用した者は，食事準備時の着用であった。

保育学生は保育現場で着用するエプロンに，ポケットが２個あり，着脱のしやすさを求めている者が多かった。

Ⅶ，参考文献

１）岩波国語辞典，2000，岩波書店，東京

２）Paprika秋号vol11，2022，株式会社学研みらい

３）PriPri，2022 12月号，世界文化社

４）あそびと環境　０・１・２歳，2022 12月号，株式会社Gakken

５）ほいくあっぷ，2022 12月号，株式会社Gakken

６）月間保育とカリキュラム，2022 12月号，ひかりのくに株式会社

７）Pot，2022 12月号，株式会社チャイルド本社

８）厚生労働省，2018，保育所保育指針解説，フレーベル館，東京

９）文部科学省，2018，幼稚園教育要領解説，グレーベル館，東京

10）無藤隆・鈴木佐希子・中山正雄・師岡章，2017，よくわかるNEW保育・教育実習テキスト改訂第３版−保育所・施設・幼稚園・小学校実習を充実させるために−，治療と診断社，東京

11）谷田貝公昭，2018，これだけは身につけたい新・保育者の常識67，一藝社，東京

12）厚生労働省雇用均等・児童家庭局長，2001，指定保育士養成施設における保育実習の

実施基準について，https://www.ipss.go.jp/publication/j/shiryou/no.13/data/shiryou/syakaifukushi/870.pdf（2022年11月19日アクセス）
13）保育福祉小六法編集委員会，2019，保育福祉小六法2019年版，株式会社みらい，岐阜市，p161
14）厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課，2008，保育所保育指針解説書，p30-47，https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04b.pdf（2022年11月21日アクセス）
15）姫島源太郎，2019，保育者のエプロンに対するニーズについての調査研究，香蘭女子短期大学研究紀要，（62），p29-36
16）坂元美貴子，2018，保育士エプロンの研究と製作，香蘭女子短期大学研究紀要，（61），p147-159